

(3) 2013年(平成25年)10月28日(月曜日)

急増する健康起因事故

「健康」「運行」管理で対応を

第8回OCHISセミナー開く

運輸業界の健康起因事故の防止を推進するNPO法人ヘルスケアネット



ワーク(OCHIS、理事長＝武田裕滋慶医療科学大学院大学学長)は18日、大阪市北区の大阪大

学中之島センターで「第8回OCHISセミナー」(写真)を開催。トラック、バスなどの運輸業界や医療、労働関係者らが出席した。

今回のテーマは「どう防ぐ! 急増する健康起因事故」で、健康起因事故を誘発するメカニズムやドライバーの健康管理などについて議論を深め、実践的な運行管理、健康管理についての方向性を示した。

セミナーの中で武田理事長は、運転者が運転中に病気を原因として起こ

した事故事例や健康状態に起因する事故の中で運転者の疾病別割合を示しながら、医学的な見地から突然死の原因などを説明した。特に乗務前点呼で持病に応じた特別な確認の重要性を説いた。

講師として参加した労働科学研究所の酒井一博所長は、関越道での高速ツアーバスの事故、東名阪自動車道で運転者が意識を失い乗客が車両を止めた事故など具体的な事例を説明し、健康起因事故が急増していることに強く警鐘を鳴らした。こ

の中で最も注意を要する疾病として心疾患、脳疾患などの循環器障害、睡眠時無呼吸症候群(SAS)を含めた睡眠障害、糖尿病を挙げ、酒井所長もやはり日常の健康管理、予防と健診結果のフォローが重要とし、点呼は実際のチェックと強調した。

自社事例の紹介では、セントリー安全管理部の竹村操係長が「わが社の取り組み」をテーマに健診による結果の重視や独自の健康増進活動を紹介した。

パネルディスカッションでは、会場からの質問にパネラーが応答した。会場からは具体的な健康管理方法や点呼で乗務を止めた場合の運転者の扱いなどが提起された。